



皆様、いつもお世話になつております。平成28年度に入り、気分も一新、新しい時代の奄美市の政治を行つていこうという気持ちで満ち満ちております。

録画中継も始まり、いつでもどこでも議会の議論を視聴して頂けるようになります。笠利・住用など光ケーブルの市内未整備地域への敷設も今後進められていきます。

前回のコラム「市民の皆様のお役に立つ、力強い議会をつくるには」で書いたとおり、「市民のため」の議会改革の動きも地道に著実に進めて参ります。議会報告会は今年度は秋頃に開催、29年度からは年2回開催します。またこの春から、一般質問のインターネット

市議会をより良くしていくことで、市民の皆様のお役に立ちたい。市民とコミュニケーションが多い議会をつくってきたい。これらのことを通じて「明るい奄美市」の実現を目指しますので、より一層のご指導をお願いいたします。

安田そうへい



そうへいの議会トピックス
直近の議会での決定事項や進捗状況についてお知らせします

1 平成 28 年第 1 回定例会 (3 月定例会) における主な議案について

●27 年度一般会計補正予算第 7 ・ 8 ・ 9 号 (4 億 3798 万円の増額、専決処分含む)⇒結果、27 年度一般会計総額は 321 億 3524 万円。その主な内容は、

- ①ミカンコミバエ被害補償費 1 億 8771 万円
- ②ミカンコミバエ防除対策業務費 1143 万円
- ③地域振興基金積立金 3 億 3152 万円、過疎地域自立促進特別事業基金積立金 1 億 3590 万円 ⇒積立金総額は 27 年度末で 129 億円
- ④地方創生推進費 8214 万円：移住促進情報発信強化、奄美大島 DMO 組織強化、水産業の 6 次産業化支援、大島紬産地再生計画策定等
- ⑤障がい者福祉介護給付等事業費 6000 万円
- ⑥その他、事業費確定等による予算減額多数

- 国民健康保険事業・介護保険事業など 7 特別会計・企業会計の補正予算
- 市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例⇒附帯決議を付けて可決 (28 年度中に名瀬・笠利両地区の幼稚園保育料の一元化を図ること)
- 住用町市湾の赤土汚染に関わる陳情⇒採択 (市湾の環境調査等を奄美市に求めるもの)
- 新年度一般会計予算 318 億円 (前年度比約 17 億円、5.6%増)

●新年度国民健康保険事業特別会計予算 74 億円、水道事業会計予算 34 億円を含む、全 11 の特別会計等予算合計 190 億円 (前年度比約 13 億円、7.3%増)

- 人権擁護委員 4 名が決まりました。
- 新しい農業委員会委員 16 名が決まりました。農業委員会制度改革の下、新農業委員の方々には耕作放棄地対策等に力を入れて頂きたいです。
- 教育委員会委員 2 名が決まりました。

2 議会報告会が開催されました

去る 2 月 5 日に笠利・名瀬・住用同時開催で議会報告会が行われ、合計で 100 名のご参加を頂きました。私は名瀬会場にて司会を務め、市民の皆様から多くのご意見を頂きました。合併 10 年の検証を求める意見もあり、議会として取り組むことが重要と考えております。アンケート回答者のうち半数以上の方が報告会の回数を「増やす方がよい」との結果でしたので、冒頭にも書いたように実現に向けて取り組んで参ります。

3 奄美市が合併 10 周年を迎えました

この 3 月 20 日に丸 10 年を迎え、記念式典も開催されました。新年度からは「奄美市総合計画」の後期 5 年計画が始まり、また第 2 次財政計画もスタートします。これからの 5 年間で奄美市の正念場、議会としても使命を果たせるよう取り組みます。

1. 奄美市 新年度予算

1

一般会計は歳入・歳出ともに

約318億円です。昨年度との比較をしながら、新年度の特徴をチェックしてみましょう。

①歳入では市税が3.5%の増加、市債が46%の増加。地方消費税交付金が22%

増加し、これが小学校卒業までの子ども医療費無料化の財源となりました。地方交付税が3.5%減少していることには注意が必要です。

②歳出では扶助費（福祉）91億円、人件費44億円、公債費（借金の返済）40億円、普通建設事業費（公共事業）46億円（対前年度比9億円の増加）と、この四費目で全体の7割近くを占めています。

③28年度末の奄美市の借金総額（一般・特別会計等含む）は昨年度当初予算時より15億円増の525億円となる見込みです。市民一人当り借金額としては県内トップレベルであり、膨らみすぎないように注意が欠かせません。

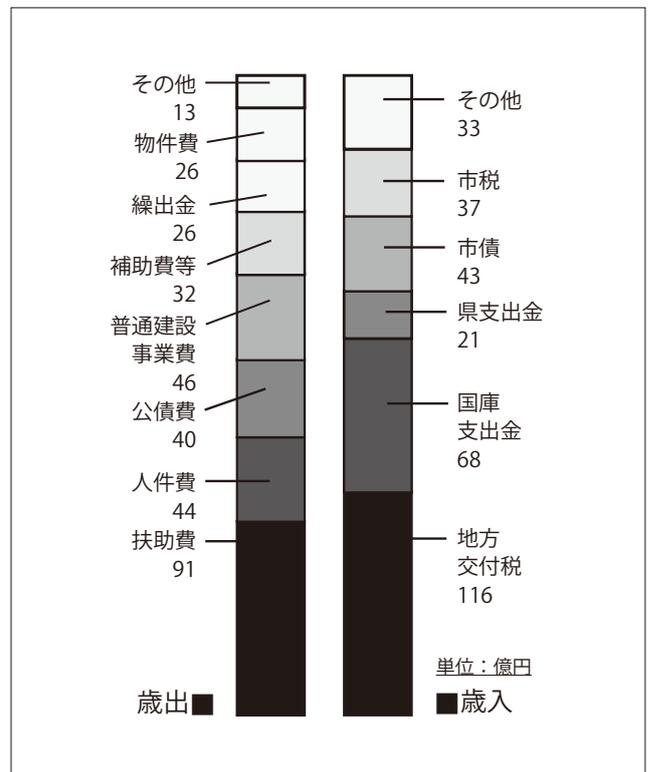
④主な目玉事業は、平田

浄水場更新事業14億6千万円、名瀬本庁舎建設事業12億8千万円、末広・港土地区画整理事業3.9億円、金久中体育館改築3.4億円、小湊小校舎改築1.6億円、住用観光プロジェクト事業2.1億円、笠利観光プロジェクト1.5億円、光ブロードバンド基盤整備負担金1.6億円、奄美空港ターミナルビル整備負担金1億円、国民健康保険事業特別会計への財源補てん分2.5億円等です。

2

昨年度策定された「奄美大島人

た「奄美大島人口ビジョン」や「奄美市総合戦略」に基づき、新年度から各種政策・事業が行われていきます。総合戦略に盛り込まれた個別の事業数は200以上



あり、既に実行されているものもあれば、全く新しいものもあります。新年度予算に盛り込まれた地方創生関連事業の合計は、前年度補正分も合わせて6.2億円。目的は「人口減少対策」であり、その柱は「雇用創出・定住促進・子育て支援」です。注目度の高い事業としては、産業創出プロデュー

2. 地方創生 総合戦略スタート！



先日、奄美市で初めて開催された「ママフェス」の様子。会場内はたくさんの家族連れでにぎわっていました。新年度から春日保育園の増築や地域型保育事業の実施により、90名ほどの保育の受け皿が増えます。子育て支援のさらなる充実を目指します。

国の新年度の地方創生関連交付金は1千億円ですが、これが続くのも31年度まで。その先については不透明なので、この4年間に将来につながる政策・事業をいかに実行できるかが問われます。

瀬中央青果株式会社・名瀬青果食品協同組合などの民間機関と意見交換を行い、農業者に対する比較的手厚い補償を確認した上で、農業を支える流通・卸小売・加工業者への緊急支援が必要と考え、2月22日付で県議会議長宛てに金融支援の実施

5月頃からはスモモの収穫が始まります。それまでに終息が図られることを願い、我々特別委員会も更に積極的に活動します。

サー配置534万円、フリーランス支援500万円、地域おこし協力隊357万円、子ども医療費助成事業9831万円、子育て世代包括支援センター1264万円、不妊・不育治療支援375万円、赤ちゃん先生クラス開催100万円、子育て・保健・高齢者福祉施設基本構想策定700万円、お達者ご長寿応援事業（高齢者の交通機関利用補助等）3374万円などが挙げられます。

3

また行政だけでなく、民間も主役になってこそ地方創生は成功するといわれています。だから、市民の皆様が積極的に参画して頂けるよう、私もパイプ役の一人としてこまめに動いて参ります。

昨年末、議会に「ミカンコミバエ問題に関する特別委員会」を設置した後、国

県市などの行政機関や名瀬中央青果株式会社・名瀬青果食品協同組合など

（利息補

てんや一定期間の返済猶予等）や放任園地対策などの要望書を提出しました。

金融支援については、奄美市もその必要性を認識しており、新年度に「経営対策資金利子補助事業」1千万円を創設しています。また県議会も「奄美

大島におけるミカンコミバエ

バエ種群の早期根絶に向けた取組支援の強化等を求める意見書」を3月23

日付で政府はじめ関係機関に提出する運びとなり、さらなる施策の充実が望まれます。

3. ミカンコミバエ対策

1月13日に行われた農林水産省門司植物防疫所との意見交換会。国の対応状況を確認後、緊急防除の進め方や今後の再発防止等について意見・要望しました。2月22日がスモモの移動規制の基準日で、これ以降に確認されなければ島外出荷できますので、そうできるよう念願しております。



今

回のタイトルのこの言葉は、

朝山市長が就任以来、施政方針演説などで度々使われてきた言葉で、私自身とても大事な言葉とらえています。先ほども書きましたが、地方創生の総合戦略など、行政だけでなく民間も主役になって社会的課題の解決・改善に取り組まなければならない時代状況になってきたことを実感しております。

というのも、地域の問題・課題についていちばんよく把握しているのはその地域の住民であり、また解決・改善の方向性やそれに役立つ地域資源を最もよく理解しているのもやはりその地域の住民と考えるからです。行政に任せておけば全てやってくれる、何とかしてくれる、という状況ではなく、つつあります。行政改革などで職員の数も年々減少し、職員一人当りの仕事量が増えている一方、住民から寄せられるニーズは増え続けているからです。高齢者支援・子育て支援・ゴミ出しの問題・ノラネコ問題など、日々たくさんの苦情や要望が行政に寄せられて

います。

これに対して奄美市も、地域の力をできるだけ引き出そうと、自治会・町内会・集落会支援に取り組んできました。自主防災組織の設立促進や、最近では高齢者福祉の観点から「地域支え合い体制づくり」が進められていますが、いずれも地域の力で地域の課題を解決・改善して頂くことを目指すものといえます。また新年度からは地方創生施策の一環として「本気で人口を増やしたい集落応援事業」を公募制で実施し、集落と行政とが

コラム

「市政の主人公は市民である」

一緒に協議をして紡ぐきよらの郷づくり事業や定住促進住宅整備事業などを活用しながら、モデルとなるような集落の人口増加策に挑戦する予定です。我こそはと思う集落の皆様には、ぜひ積極的に手を挙げて頂きたいです。

県内の先進事例では、薩摩川内市

において「地区コミュニティ協議会制度」を導入し、いくつかの自治会を統合（校区単位ぐらい）して、それぞれの地区で防災防犯・交通安全・高齢者や子育て支援・環境美化・地域行事・あいさつ運動などの諸活動に取り組んでいます。一つの自治会ではできないことも、他の自治会とお互いに協力しながら活動することで、大きな成果を目指しています。それに対して行政も議員も支援していくというスタイルをとっており、奄美市でも将来的に研究すべきテーマと考えております。



▲1月31日に住用町市集落で行われた勉強会。奄美市全体や市集落の課題について意見交換しました。時代が変われば、議員の役割も変わります。その変化をとらえながら、市民の皆様とともに汗をかく活動を心掛けます。



そうへいからの お知らせ

- 「出前報告会」を行います！

ご要望頂ければ議会報告・活動報告に伺わせて頂きますので、気軽にお声を掛けてください。



- 本チラシの「配布ボランティア」を募集しております！
- お困りごとや奄美市へのご要望等ありましたら、どしどしお寄せください！
- しーまブログ、ツイッター、フェイスブックでも活動情報発信中です！

※安田そうへい連絡先：

奄美市名瀬古田町5-7

電話：54-7621 / FAX：54-7620

Eメール：sohei@mskj.or.jp